

平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	こどもの居場所づくりスタッフ育成事業
事業主体 (連絡先)	特定非営利活動法人まんま (南佐久郡佐久穂町高野町 1500-40 電話 0267-86-0910 代表 田辺佳代子)
事業区分	(2) 保健、医療、福祉の充実に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	759,596 円 (うち支援金: 607,000 円)

事業内容

1. 居場所づくりスタッフ育成講座

安心安全な場をつくりながら世代を超えて共に育ちあひ学びあう関係性をつくり、ダイアログ（対話）をベースにした支えあい、そして1人1人を尊重しあう多様な居場所づくりのできるスタッフを育成するために、フィンランドの取り組みを通じて体験しながら学ぶ講座を「こどもも大人も一緒につくるみんなが居心地のいいあったかい居場所づくり」として3回シリーズで行った。

1) 「ムーミンが生まれた国フィンランドの幸せな居場所づくりと個性を育む日々の暮らし」

だれもが居心地のいい居場所づくりに欠かせない多様性とポリフォニー（多声性）。ムーミン研究家で翻訳家・コーディネーターまたダイアログの通訳として日本とフィンランドの文化を深く理解し紹介してきた森下圭子さんが、多様性が文化として根付くフィンランドで個性を育む日々の暮らしを紹介、そこから感じる参加者一人一人のしあわせや個性を存分に味わい、感じたことを対話した。

2) 「子育て家族支援における対話と信頼 ～フィンランドのネウボラのエッセンス～」

日本の子育て世代包括支援のモデルにもなっているネウボラは「実家」のような場。子育て支援拠点と継続相談支援を兼ねている相談の場で、トレーニングを受けた専門家である「ネウボラおばちゃん」が「子育て期間にはだれにでも危機が訪れるもの」という前提で、妊娠中から就学前まで子育て家族全員に定期的に関わり、ふだんは家族の成長を見守りつつタイミングを逃さずに早期支援できる。ネウボラ研究の日本の第一人者である高橋睦子さんからネウボラのエッセンス子育て家族支援の基礎を学びながら、相談の場を居心地のいい実家にする「ネウボラおばちゃん」の秘訣、早期ダイアログを紹介し、参加者同士の対話を促しながら、共に学んだ。

3) 「心配ごとを早め一緒に軽くするダイアログ（対話）」

ダイアログ（対話）の基礎を学び、支援者自身が心配ごとを伝え協力を求める早期ダイアログを

【ムーミンが生まれた国フィンランドの幸せな居場所づくりと個性を育む日々の暮らし】



【同室こどもスペースと同室託児スタッフ（別室託児もあり）】



【子育て家族支援における対話と信頼 ～フィンランドのネウボラのエッセンス～】



(別記様式第12号) (第3の8関係)

体験、実際に経験する中で安心安全の場づくり・一人一人の尊重する対話・だれもがいられるための配慮などを学び、共に育ちあい学びあう関係性をつくるきっかけとなった。

子育て家族支援における対話と信頼～フィンランドのネウボラのエッセンス～	11月17日 13-16時 吉備国際大学保健医療福祉学部教授 高橋睦子氏 (岡山市)			
ムーミンが生まれた国フィンランドの幸せな居場所づくりと個性を育む日々の暮らし	10月6日 13-16時 ムーミン研究家・翻訳家 森下圭子氏 (フィンランド/東京滞在)			
心配ごとを早めに一緒に軽くするダイアログ (対話)	H31.11月19日 13-16時 心療内科医師 田辺佳代子 精神科作業療法士 島田康行			
場所	佐久穂町茂来館			
対象者	佐久広域で子育て支援・居場所づくりに関わりたい方			
参加費	無料			
講座名	参加者大人	同室子ども	託児数	保育ボラ数
ネウボラ	24	1	6	3
ムーミン	40	14	10	5
ダイアログ	13	1	7	4

モデル的で発展性のある事業である理由

居場所づくりが広まり実践する人が増える中で、次の課題を感じている支援者も多く、これから先も実践し続けるために深く根を張るための考え方を学ぶ機会であることが、モデル的で発展性がある。

2. 居場所づくりスタッフ継続支援

居場所づくりなどが継続して行われるにつれて、支援者自身の心身の健康をいい感じに保つことがより大切になってくる。WRAP (元気回復行動プラン) を使って支援者のトリセツづくりをすることで支援者自身がいい感じにいられて、居場所にくる子が居心地よく過ごせたり、相談しやすかったり、子どもの悩みや揺れに対する行動プランを一緒に考えやすくなる。

日時	9/5.12.19.26.10/3.10.17 と 11/21 午前中 2.5時間 週1回 7回連続+フォローアップ1回
講師	WRAP ファシリテーター 島田 康行氏 (小諸市) 心療内科医師、子育て支援員 田辺佳代子
場所	佐久穂町子どもセンターさくほっこ
	参加者9名 参加費無料

モデル的で発展性のある事業である理由

活動をしていると支援者自身が体調を崩すことは残念ながらよくみられる。そんながんばりながらも自分を大切にしている感じの自分での姿そのものが、居場所にくる子どもたちや仲間のモデルにもなる点が、モデル的で発展性がある。



【心配ごとを早めに一緒に軽くするダイアログ (対話)】



【元気回復行動プランWRAP】



事業効果

参加者の不安軽減 自己評価が上がる
実施後 参加者の90%変化
つながりができ、相談できる関係性ができてきた

信州こどもカフェ推進地域プラットフォームである佐久地域こども応援プラットフォームの協力のおかげで、いままでになく多様な参加者が集まったことは、多様性を肌で感じられるまたとない機会となった。

全4講座ともダイアログをベースにして行ったところ、どの講座でもえもいわれぬ居心地のいい場ができ、終了後もまだまだ話していたいはずいぶんと長く残り、感じたことを伝え合う光景が続いた。いごこちのいい居場所を作るには、なによりも場を作る人自身が居心地の良さ、あたたかさに包まれた体験をし共有した仲間がいるという経験が大切なのだということを目の当たりにすることができた。

【目標・ねらい】

- ① 参加者の孤立の解消・つながり作り
- ② 参加者の不安軽減
- ③ 参加者の自己評価の改善

※自己評価 【A】

【理由】

対話を基調に居場所づくりのための研修を行ったところ、様々な分野の参加者があり、多様な中で居心地のいいあたたかい場の実体験を共有することができ、想像を超えたつながりや関係性ができてきたため

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

いままでママ同士のピアサポート中心に活動してきたが、母親に限らず子どもから年配の方まで男女や地域も職種も様々な方が集まることのできたのは、佐久地域こども応援プラットフォームの協力が大きく感謝しており、今後も連携を続けたい。対話を基調とした多様な居心地のいいあたたかい場を作り、学びの場を提供し体に染み入るよう共有していく機会を継続して作っていく。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある